



中勸助生誕130年 没後50年
中勸助文学記念館
開館20周年記念事業

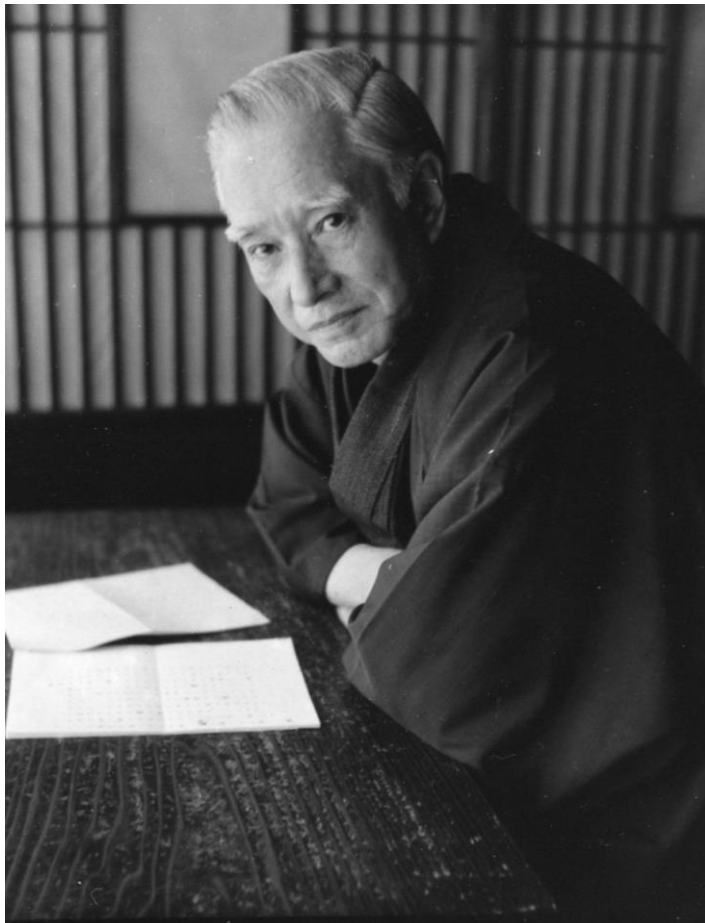
平成27年度静岡市×薬科生涯学習センター共催事業

講演会

物語はこうして生まれた

～中勸助の『鳥の物語』と戦争詩～

小説『銀の匙』で知られる作家の中勸助は戦中戦後を静岡市郊外で過ごしました。静岡滞在中に勸助の戦争に対する考えがどのように変化したのか、静岡市が所蔵する資料の調査結果を中心にお話します。今回は、夏目漱石が中勸助に宛てた書簡（レプリカ）や、当時中勸助が使用していた地図など、貴重な品を実際にご覧いただけます。



開催日

11月28日（土）

13:00～15:00（受付 12:30～）

講師：木内英実（東京都市大学准教授）

会場：薬科生涯学習センター 2階ホール
（静岡市葵区羽鳥本町5-9）

※詳細は裏面をご覧ください

会費：無料 定員：どなたでも50人

申込：10月30日（金）10:00～、電話で
静岡市コールセンター（054-200-4894）
へお申込みください。（申込順）

問合せ：（公財）静岡市文化振興財団（054-255-4746）

関連企画

11月11日（水）～12月10日（木）

薬科生涯学習センター1階展示ギャラリーにて
「薬科と中勸助展」を開催します。

併せてご覧ください。

主催：静岡市/静岡市薬科生涯学習センター

企画・制作： 公益財団法人
静岡市文化振興財団
Shizuoka City Cultural Promotion Foundation

/静岡市薬科生涯学習センター（指定管理者：静岡市文化振興財団共同事業体）

講師紹介

きうちひでみ

木内英実 (東京都市大学人間科学部准教授)

小田原女子短期大学等の勤務を経て現在にいたる。専門は日本近代文学（主に中勘助、木下杢太郎、小泉八雲の作品など）、児童文学（主に昔話や伝承話、古典作品の近現代的な展開の研究）。現在、遺族等から静岡市に寄贈された中勘助関連資料の調査研究を行っている。

2015年9月、中勘助文学に関する研究で博士号（文学）取得。学位取得論文名は「中勘助インド三部作研究—印度学・仏教学の受容を中心に—」

中勘助文学記念館

子どもの世界をあざやかに描いた「銀の匙」で有名な作家、中勘助は昭和18年、58歳の時に療養のため東京から旧服織村（現在の葵区新聞、羽鳥付近）へ移り、4年半を過ごしました。村の自然や村人とのふれあいはその後の作家活動に大きな影響を与え、帰京後も村人との交流は続きました。

静岡市は、中勘助生誕110年にあたる平成7年に、夫婦の住居を整備復元して中勘助文学記念館として開館しました。一般開放しているほか、歌会・句会など文化活動に利用されています。

入場料：無料 開館時間：午前10時～午後5時

休館日：月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日曜日を除く)、
年末年始(12月26日～1月5日)

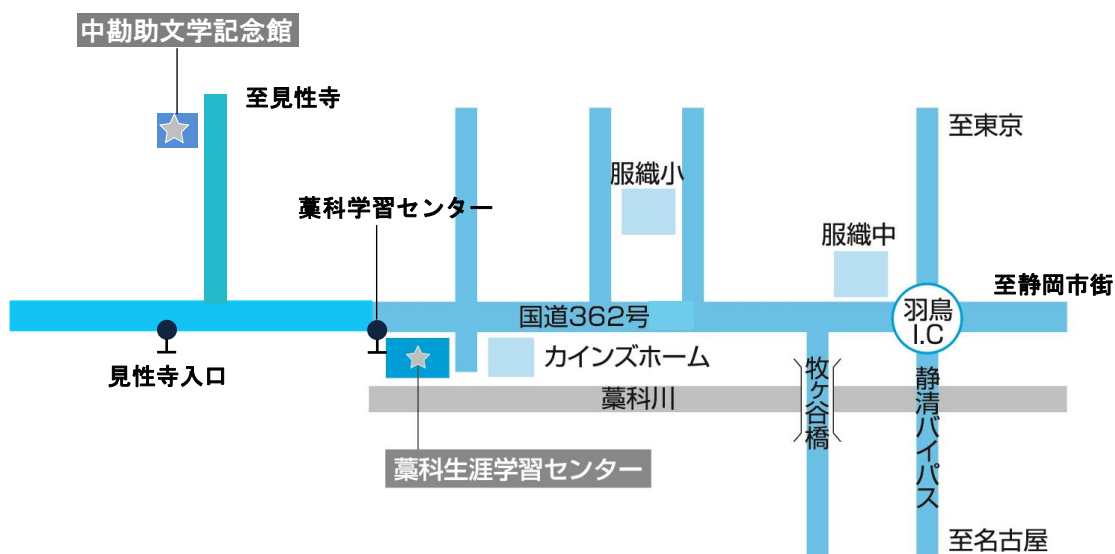
所在地：〒421-1201 静岡市葵区新聞 1089-120

TEL：054-277-2970

アクセス：しずてつジャストライン 藁科線「見性寺入口」下車2分



会場案内



藁科生涯学習センター

住所：静岡市葵区羽鳥本町5-9 TEL：054-278-4141

アクセス：しずてつジャストライン 藁科線「藁科学習センター」下車

※駐車場の数に限りがありますので、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。